

## 【調査研究】

## 禁煙プロジェクト2011

## ～たつの市揖保郡医師会における禁煙への取組～

佐野 一成<sup>1)</sup> 植田 孝<sup>1)</sup> 小田 豪<sup>1)</sup> 岸野 吉博<sup>1)</sup> 桑田 博史<sup>1)</sup> 清水 映二<sup>1)</sup> 中村 博文<sup>1)</sup>  
 二ノ丸 眞也<sup>1)</sup> 藤末 龍<sup>1)</sup> 山本 裕之<sup>1)</sup> 八十川 信正<sup>1)</sup> 田淵 慶彦<sup>1)</sup> 井上 喜通<sup>1)</sup>

キーワード：アンケート調査・医師の喫煙・禁煙外来・受動喫煙

## 【はじめに】

喫煙は、喫煙者本人の健康に影響を与えるだけでなく、非喫煙者に対しても、受動喫煙というかたちで大きな影響を及ぼしている。我が国でも健康増進法の成立やたばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（以下、たばこ規制枠組条約）が発効されるなど、禁煙に対する取組が始まっているが、成人の喫煙率は高く、学校や医療機関などの受動喫煙対策は進んでいないのが現状である。

そこで、たつの市揖保郡医師会は禁煙推進のために、「禁煙プロジェクト2011」として、以下のとおり活動を実施した。

まず、医師会会員を対象としたたばこに関する実態調査および施設におけるたばこ環境、禁煙外来についての実態調査を実施した。（平成23年3月）実施後、会員に調査結果を報告し、講演「こんなに楽しい禁煙外来のノウハウ」（講師 高橋裕子）を行った。さらに喫煙者（実態調査において「吸う」と回答した会員）に対して、禁煙資料（日本医師会、日本循環器学会作成）を配布し、たつの市揖保郡管内の禁煙外来の案内と禁煙治療薬（ニコチン及びバレニクリン）の紹介を行った。喫煙経験のある会員（実態調査において「吸う」および「やめた」と回答した会員）については1年後に、追跡調査を行った。

また別途、教職員に対して禁煙の講演を行い、中学校1年生に対して禁煙の教育講演と質問紙調査を行った。以下に（1）医師会会員を対象としたたばこに関する実態調査および施設におけるたばこ環境、禁煙外来についての実態調査（1年後の追跡調査を含む）および（2）中学校1年生に対して禁煙の質問紙調査の結果について報告する。

## 【目的・方法および結果】

（1）たつの市揖保郡医師会会員を対象としたたばこに関する実態調査および施設におけるたばこ環境、禁煙外来についての実態調査

## &lt;目的&gt;

たつの市揖保郡医師会会員のたばこに関する実態を把握するとともに、禁煙への意識づけ、および禁煙外来保険診療医療機関（以下、禁煙外来）の開設促進を目的とした。

## &lt;方法&gt;

たつの市揖保郡医師会会員121名（男105名、女16名、所属別では病院57名、診療所64名）に対し、喫煙状況やたばこへの意識に関する調査用紙を送付し、回収した。またA会員（開設者）60名に対して、施設におけるたばこ環境、禁煙外来に関する調査用紙を送付して回収した。また喫煙経験のある会員（実態調査において「吸う」お

1) たつの市・揖保郡医師会

責任者連絡先：佐野 一成  
 兵庫県たつの市神岡町横内260(〒679-4106)  
 佐野内科ハートクリニック  
 Tel:0791-65-1301 Fax:0791-65-2050  
 E-mail:mail@heart-clinic.jp

よび「やめた」と回答した会員)については1年後に、追跡調査を行った。

<結果>

たつの市掛保郡医師会員121名のうち、119名(男103名、女16名、所属別では病院56名、診療所63名)から回答を得た。またA会員(開設者)60名に対しての施設におけるたばこ環境、禁煙外来に関する調査では全施設から回答を得た。

喫煙率は、全体で18.5%、男性21.4%、女性0%、勤務場所別では病院23.2%、診療所14.3%であった。(図1・図2) また喫煙者の喫煙本数は1日平均16.4本±10.0、喫煙年数は、30.6±11.9年であった。(図3)

禁煙に対する意識調査では、1ヶ月以内に禁煙しようとする

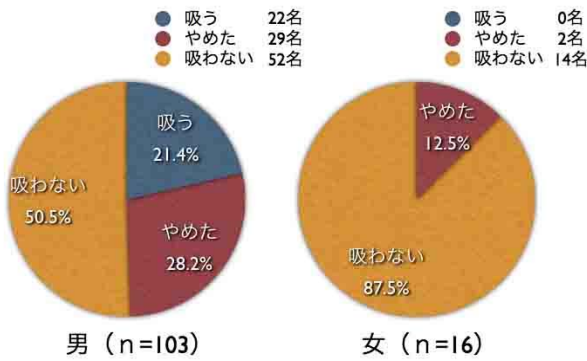
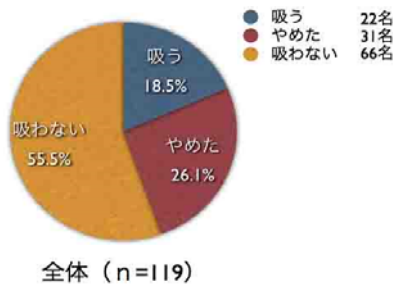


図1 会員の喫煙状況

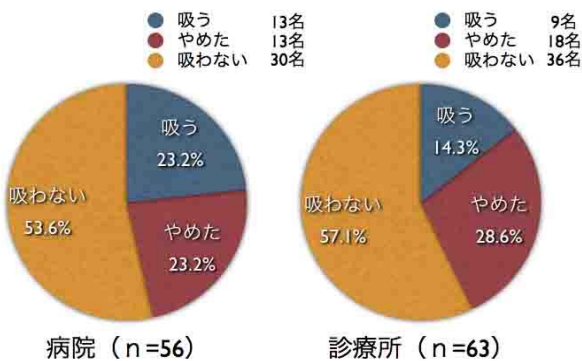


図2 勤務場所別喫煙状況

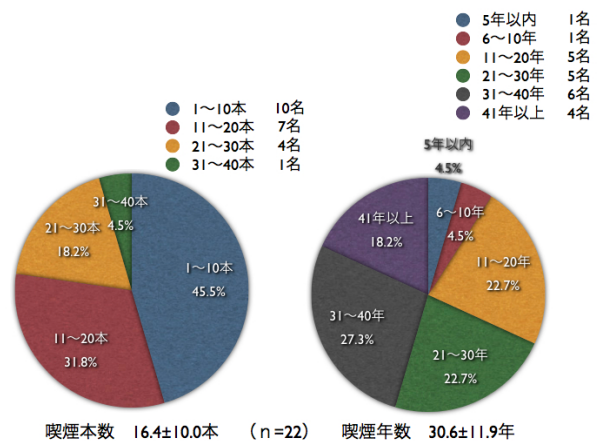


図3 一日平均喫煙本数と喫煙年数

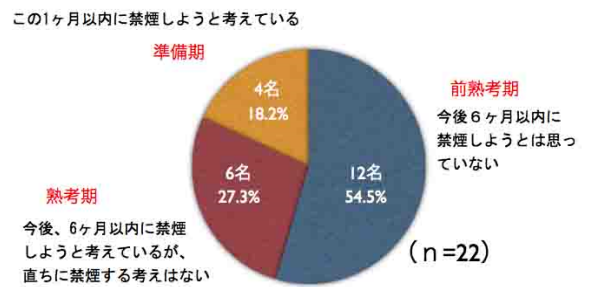


図4 禁煙の意識ステージ

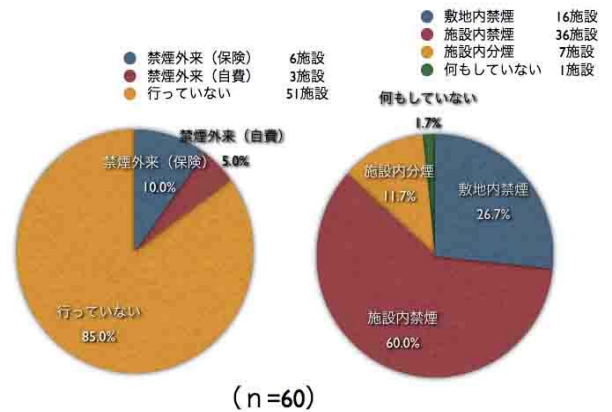


図5 禁煙外来開設状況と禁煙環境

考えている会員が4名(18.2%)、6ヶ月以内に禁煙しようと考えている会員が6名(27.3%)であった。(図4)

禁煙外来は6施設10.0%で開設されていた。敷地内禁煙は、自院で禁煙外来を行っていない医療機関でも実施されており、敷地内禁煙にしている医療機関は26.7%であった。施設内禁煙60.0%であった。(図5)

喫煙歴のある会員53名(男性51名、女性2名)に対しての1年後の追跡調査では、喫煙行動について、前回「吸

う」と回答した22名のうち5名が禁煙していた。(禁煙成功率22.7%)「やめた」(6ヶ月~35年前)と回答していた31名については、再喫煙した会員はいなかった。なお1年後には、禁煙外来は2施設増え、8施設が実施(実施率13.6%)しており、前年に比して3.4%増加した。

(2) 中学校1年生に対するたばこに関するアンケート調査

<目的>

たつの市の中学校1年生のたばこに関する実態を把握する。

<方法>

たつの市揖保郡管内の中学校1年生(たつの市5校、揖保郡2校)の全生徒1137名に対して、たばこに関する質問紙調査(無記名、自記式)を実施した。なお調査に先立ち、まず学校教諭(揖龍学校保健会)に対して講演「禁煙について」(講師 佐野一成)を行い、ついで各学校で禁煙についての授業(講師 学校医および養護教諭)を実施し、その終了後に調査を実施した。

<結果>

回収数は1133名であった(回収率99.9%)一部の設問については、各学校長の判断により削除されたため、設問

表1 喫煙開始年齢と家族喫煙の有無およびタバコの入手場所

	誰も吸わない	誰かが吸う
中学1年生	●●	●●●●●●●●
小学6年生		●●●●●●●○
小学5年生	●●	●
小学4年生		●
小学3年生		●
小学2年生	●	●●
小学1年生		●
幼稚園(保育園)	●	●●●●●●
学年不明	○	○○

●自宅 ●友達 ●自動販売機 ●その他 ○不明

により対象者数が異なっている。

たばこを吸ったことがあると回答した生徒は30名(2.6%)だった。設問に答えていない(白紙)生徒は59名(5.2%)であった。(図6) 家庭で誰かがタバコを吸うと答えた生徒は56.8%であった。(図7)

喫煙に対するイメージでは、複数回答可であったが、喫煙に対して、カッコいい(44名)大人っぽい(124名)などプラスイメージを抱いている生徒は、全体として少数派であった。(図8)

喫煙経験者30名のうち、23名(76.6%)は家庭で誰かが吸うと答えていた。たばこを吸った学年は、中学校1年生が7名、小学校6年生が6名と多かったが、幼稚園(保育園)で吸ったと答えた生徒も5名いた。たばこを手に入れた場所は、自宅が17名と半数以上を占めた。(表1)

【考察】

たばこ産業の平成23年全国たばこ喫煙者率調査<sup>2)</sup>によると、成人男性の平均喫煙率は33.7%で、この20年間、減少し続けているが、諸外国と比べると高く、成人女性の平均喫煙率は10.7%であり、横ばい状況が続いている。

日本医師会は、1999年に世界保健機関が「医師は喫煙すべきではない」という考えを提唱したことを受け、禁煙推進活動の一環として2000年から4年毎に会員の喫煙率を調査している。<sup>3)</sup> 男性医師全体の喫煙率は、2000年27.1%、2004年21.5%、2008年15.0%に低下した。診療科別の喫煙率では、呼吸器科(2008年の調査)は、3.6%と英国2%(2000年)米国3%(1991年)なみに低値であった。呼吸器科の男性医師の喫煙率が大きく低下した一因として、日本呼吸器学会で専門医の認定条件に「非喫煙者であること」を義務づけたことが有効であったと



図6 喫煙経験率

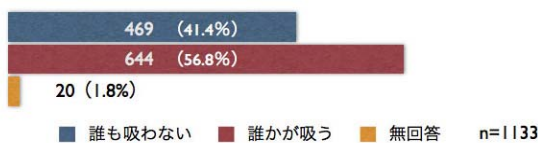


図7 家庭単位での喫煙率

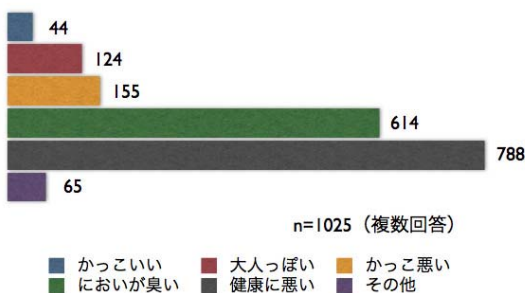


図8 喫煙に対するイメージ

分析している。

今回、会員へのたばこに関するアンケート調査結果より、会員（男性）の喫煙率は、21.4%（22名）喫煙本数は1日平均16.4本、喫煙年数は、30.6年だった。平成21年度のニコチン依存症管理料算定保険医療機関における禁煙成功率の実態調査報告書<sup>1)</sup>では、禁煙外来を受診された患者さんの喫煙本数は、1日平均26.2本、喫煙年数は、30.7年と報告されており、喫煙率、喫煙本数は成人男性より低い、その比較には率先して禁煙に取り組まなければならない医師としての立場も考慮しなくてはならない。

喫煙する会員22名のうち、禁煙について関心のないと答えた会員が12名いた。禁煙サポートは、行動科学に基づいて、ステージに合わせて行うのが効果的と報告されている<sup>2)</sup>が、本研究では、禁煙に関するパンフレット類の配布や禁煙の講演会の実施、禁煙外来の案内、禁煙治療薬の紹介など、喫煙者に対して一律な禁煙サポートしかできておらず、禁煙に成功したのは5名（禁煙成功率22.7%）にとどまった。その内4名は準備期～熟考期、1名は前熟考期だった。前熟考期で禁煙に成功した1例は、気管支喘息の再発が契機であった。対象者が医師という職種であることも個人指導などの介入に限界があり、引き続き粘り強く禁煙の啓蒙活動、サポートを行っていく必要があると思われた。

喫煙は、世界保健機関において「病気の原因のなかで予防可能な最大の単一の原因」として位置づけられている。我が国は、マスメディアを含め、喫煙者に対し寛容な社会認識があるが、やっと平成14年7月、受動喫煙を防止するための健康増進法が制定され、平成17年2月には、次世代を保護するためにたばこ規制枠組条約が発効された。一方、平成18年4月から禁煙治療に対する保険適用が認められ、5年が経過したにもかかわらず、禁煙外来保険診療医療機関はわずか11.8%に過ぎない。<sup>5)</sup>（兵庫県は、全国21位 12.4%）この状況はたつの市揖保郡も否めず、禁煙外来を開設している医療機関は13.6%（3.4%増）と少ない。

我が国のほとんどの医療機関は、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の治療には積極的に介入している。しかし一方、たばこが、がんや脳卒中、心筋梗塞だけでなく、慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息、歯科口腔疾患などの様々な病気の危険因子であることを承知しているにもか

かわらず、禁煙治療を行う医療機関が少ない。これは、施設基準の届け出が必要なこともその一因ではあるが、医学教育においてたばこについての体系的なプログラムが用意されていないこともあって、一部の禁煙推進に積極的な医師を除き、たばこに対する関心や意識が低いことが一因と思われた。

たばこ規制枠組条約が発効され、本来は、国が条約に基づいてたばこ規制に関する法律を制定すべきであるが、地方自治体が国に先駆けて、条例を制定に取り組んでいる。平成22年の「公共的空間については原則として全面禁煙であるべき」との厚労省健康局長通知に従い、兵庫県では、平成24年3月に「受動喫煙の防止等に関する条例」を神奈川県に次いで、全国二番目に制定した。兵庫県の条例では、保育園、幼稚園、小中高校等の子供たちのいる学校が敷地内禁煙になったことは、高く評価されるべきであり、たつの市揖保郡管内の学校は、他の自治体に先んじて、既に敷地内禁煙が実施されている。たつの市揖保郡管内の禁煙外来は8施設（13.6%）が開設しているが、すべて診療所である。平成25年4月1日より兵庫県「受動喫煙の防止等に関する条例」が施行されるのを機に、病院でも禁煙外来が開設され、全国平均22.7%を超えることを期待したい。

また最近、小中学生の喫煙経験率が低下しているという報告<sup>6)</sup>が多い。その理由として、たばこの価格が高くなって手に入れにくくなったことやメディアでの喫煙シーンの映像を自粛したことで喫煙開始圧力が減ったり、たばこに関する良いイメージが減少した<sup>7)</sup> ことなどが挙げられている。

今回の中学校1年生に対するたばこに関するアンケート調査では、たばこを吸ったことがあると答えた生徒は30名（2.6%）だったが、白紙で提出した生徒も59名おり、その中に、喫煙経験者が含まれている可能性が推測される。

保育園、幼稚園～小学校3年生にたばこを吸ったことがあると答えた10名の生徒のうち、家庭で誰も吸わないと答えた生徒が2名に対し、誰かが吸うと答えた生徒は8名だった。最近の喫煙率は成人男性約3割、成人女性約1割と報告されているが、家庭という単位で見れば、父親、母親、祖父母、兄弟などのうち誰かがタバコを吸うことで、56.8%の家庭にたばこが存在し、簡単にたばこを手に入れる環境が、幼少期からの喫煙や受動喫煙に繋

がっていることが示唆された。子供をたばこから守るためには、成人の喫煙率をさらに下げること、家庭にたばこが存在しない環境を作ることが重要と思われた。

学校医による生徒への禁煙の講演は、一部の中学校では既に行われていたが、今回の取組を契機に、たつの市揖保郡管内の全ての中学校で中学1年生に対する禁煙教育を継続して行うことになった。今後は、たつの市揖保郡医師会において、学校保健活動の一事業として、学校医に協力して講師を派遣することによって、恒常的に、会員に対する禁煙への意識づけが行われることを期待する。

### 【結 語】

たつの市揖保郡医師会は禁煙推進のために、「禁煙プロジェクト2011」として、諸活動を実施した。医師会会員を対象としたたばこに関する実態調査および施設におけるたばこ環境、禁煙外来についての実態調査（1年後の追跡調査を含む）を行ったところ、会員の喫煙率が低下し、禁煙外来を行う医療機関が増加した。

また教職員に対して禁煙の講演を行い、中学校1年生に対して禁煙の教育講演と質問紙調査を行った。中学校1年生で、たばこを吸ったことがあると答えた生徒は30名だった。多くは最近の喫煙だが、幼児期に経験のある生徒も少なからずいた。たばこを手に入れた場所は、自宅が多くを占めた。

今回の取組を契機に、たつの市揖保郡管内の全ての中学校で中学1年生に対する禁煙教育を継続して行うことになり、会員に対する禁煙への意識づけ強化となることを期待する。

### 【文 献】

- 1) ニコチン依存症管理料算定保険医療機関における禁煙成功率の実態調査報告書 診療報酬改定結果検証に係わる特別調査（平成21年度調査）中医協 総-2-622.6.2 中医協 検-2-522.5.26
- 2) 全国たばこ喫煙者率調査 日本たばこ産業による調査（平成23年度）
- 3) 日本医師会喫煙意識調査報告 第3回（2008年）
- 4) DiClemente CC, Prochaska JO, Fairhurst SK, Velicer WF, Velasquez MM, Rossi JS. The process of smoking cessation: an analysis of precontemplation, contemplation, and preparation stages of change. *J Consult Clin*

*Psychol.* 1991 Apr;59(2):295-304.

- 5) [http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kinki/gyomu/gyomu/hoken\\_kikan/index.html](http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kinki/gyomu/gyomu/hoken_kikan/index.html) 厚生労働省 地方厚生支局 施設基準届出受理状況
- 6) 尾崎米厚 中高生の喫煙状況と2010年のタバコの値上げの影響 中央調査報 649
- 7) 2011年2月7日ファイザー社プレスリリースより
- 8) 男女の恋愛・結婚における喫煙意識調査 [http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/press/2011/2011\\_02\\_07.html](http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/press/2011/2011_02_07.html)